



深小っ子だより

こころざし高く
思いやりのある
深小っ子の育成

特別号
〈学力編〉
R6.11.15 発行

さらなる学力向上を目指して！

日頃より、本校の教育活動に対してご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。さて、毎月発行しております「深小っ子だより」ですが、今回は特別号として、本校の子供たちの学力についてお知らせいたします。

4月に6年生が「全国学力・学習状況調査」を、5月に4・5・6年生が「埼玉県学力・学習状況調査」を実施しました。その2つの学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、結果の概要をお伝えいたします。

深谷小学校では、本調査結果を日々の授業改善に生かしてまいりますので、今後ともご家庭における学力向上の取組にお力添えいただきますようお願い申し上げます。

なお、質問紙調査の結果は本校のホームページで公開しておりますのでそちらもご覧ください。

全国学力・学習状況調査

平均正答率 単位(%)

教科	国語	算数
深谷小	上回った	上回った
埼玉県	69	64
全国	67.7	63.4

来年度は、タブレットを用いたCBT調査となります。CBTとは「Computer Based Testing」の略です。



「よかった点(○)」と「課題(●)」

【国語】

○「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる」「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題で、全国や県の正答率を大きく上回りました。

●「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題の正答率が、全国や県に比べてやや低いです。

【算数】

○「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」「角柱の底面や側面に着目し五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」問題で、全国や県の正答率を大きく上回りました。

●「球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる」「速さの意味について理解しているかどうかをみる」問題の正答率が、全国や県に比べてやや低いです。

課題への取組・改善策

【国語】

・事実と感想、意見を区別できるようにするために、説明文を読む際に、事実と意見にそれぞれ線を引かせる活動を取り入れます。また、文章を書く単元において、書く前の場面では、書く目的や内容を検討する時間を設定し、伝える相手を明確にしたり、何をどのように書くかを整理させたりします。記述する場面では、友達と助言し合いながら、児童自身が自分の文章を見直したり、書き直したりする活動を充実させていきます。

【算数】

・第3学年の『球』の指導において、中心、半径、直径を学習する際、球の断面が見てわかる教具を使って理解させます。また、球を箱にピッタリ入れたときの箱の縦・横の長さを図と具体物を使って十分に理解できるようにします。

・第5学年の『速さ』の学習においては、速さの意味を日常生活の場面と結び付けて理解できるようにします。(距離が同じ場合は、かかった時間が短い方が速いということ、時間が同じ場合は、進んだ距離が長い方が速いということ、時速や分速での表し方など)

埼玉県学力・学習状況調査

今年度は、初めてタブレットを用いたCBT調査となり、問題を解くまでに費やした時間などが詳細に把握できるようになりました。

平均正答率 単位(%)

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
深谷小	上回った	上回った	同等	上回った	上回った	上回った
埼玉県	51.9	56.9	56.7	62.6	53.4	50.9

学力レベル(平均)

教科	国語			算数			学年	学力のレベル
	小4	小5	小6	小4	小5	小6	小学校4年生	レベル1～レベル7
深谷小	5-A	6-A	7-C	5-C	5-A	6-B	小学校5年生	レベル2～レベル8
埼玉県	5-B	6-B	7-C	4-A	5-B	6-B	小学校6年生	レベル3～レベル9

※学力のレベルは、各学年7レベルの間で行います。1つのレベルをさらに3分割し、上から順にA,B,Cで表しています。

一人一人をより伸ばすための取組

・深谷小の授業の型「深小スタイル」と学習規律等の約束「深小スタンダード」の実践を通して、日々の授業の充実を図り、児童の学びに向かう力や人と関わる力を育んでいきます。

・チャレンジタイムで3年生以上が取り組んでいる「深谷市学力向上プロジェクト問題」において、一人一人の学習内容の定着度を見極め、できるようになるまで繰り返し取り組みます。

・教師が授業中におけるタブレットの効果的な活用事例を研修等で学び、児童同士の協働的な学びが生まれやすい授業づくりを推進していきます。

・平均正答率の低い問題については、県が作成している「復習シート」を授業や家庭学習等で活用し、学習内容の定着を図っていきます。

▼「復習シート」へのリンクです。

